

やませみ 通信



<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

(やませみは興津川の清流のシンボルです)



市民の森
づくりは、
大変だけど
達成感で
心大満足!!



汗をかいた後の御前の滝はひときわ涼しい!!



NO. 34

平成 24 年 3 月

平成 23 年

- 4月 市民の森づくり (1)
 - 6月 螢鑑賞会、総会、
内閣総理大臣表彰
 - 7月 市民の森づくり (2)、
川遊び・鮎釣りセミナー
 - 8月 川のセミナー
 - 11月 森林探検隊
- 平成 24 年
- 1月 受賞フォーラム
 - 2月 市民の森づくり (3)、
視察研修

目次

- 1 川遊び・鮎釣りセミナー
- 3 内閣総理大臣表彰
受賞フォーラム
- 5 第 16 回 川のセミナー
「興津川を科学する！
魚・虫、そして興津川
のしくみ」
- 6 市民の森づくり (3)
- 7 山と谷を駆けめぐる森林
探検隊
- 9 「岐阜市・静岡市 清流
保全交流事業」視察研修
に参加して
- 10 総会～元気な天然アユが
育つ興津川～
- 11 平成 23 年度 静岡市
興津川保全基金への寄附
など

再生紙を使用しています。

川遊び・鮎釣りセミナー 7月30日

興津川保全市民会議 事業委員会

川崎から「川遊び・鮎釣りセミナー」へ参加

去年は、川崎市から多くの人に参加する予定でしたが、前日に雨が降り川が増水したため、中止となってしまいました。大勢の申し込みがあり、とても残念がられたとのことだったため、今年は、何があっても中止はしないと臨んだ「川遊び・鮎釣りセミナー」でした。

今年は、天気も何とか持ちこたえ、川崎市（多摩川）からの参加者も交通渋滞で少し遅れましたが、開催することができました。

開講式と鮎釣りの極意について

開会のあいさつと参加者と鮎釣りを指導する「鮎釣りの講師」の紹介のあと、望月事業委員長から「鮎の生態と鮎釣りの極意」について説明がありました。

そして、早速グループに分かれ、川に入り、鮎釣り名人の講師の指導により、生きているおとり鮎を付けて鮎の友釣りを開始しました。

今年の川の状態は、余りよくありませんでした。というのは、一週間ほど前に大雨が降り、鮎のえさとなる苔（けい藻）が洗い流されてしまっており、えさ場が無いので野鮎の「縄張り」ができていなかったからです。そのため、おとり鮎を付けて川中に入れても縄張り争いをしないため、友釣りができにくいのです。

開会と鮎の友釣りの話



大物を狙って釣り始める

何とか大物を釣ろうと講師の案内で、釣れそうな場所へ移動して、おとり鮎をつけて、川中の野鮎がいそうな所を狙って釣り始めました。

さすが、興津川漁協組合員などの鮎釣り名人の指導によって、あちこちで釣れ始めました。

釣れなかった人もいて、チョット残念そうでしたが、みんな、透明に澄んだ興津川の清流の中での鮎の友釣りを満喫しました。



鮎釣り名人の指導で、大物を狙って、おとり鮎を川の中へ



鮎が釣れました。後は、上手に夕毛ですくい上げます。

自然の鮎です。



お昼は鮎の塩焼きでお弁当

鮎の友釣りでお腹をすかせた後は、お昼のお弁当です。

事業委員がこの日のために釣ってあった自然の鮎を塩焼きにして食べました。また、スイカ割りをして楽しく昼休みを過ごしました。

お昼休みは鮎の塩焼きを食べて大満足



午後は水泳、魚救い、鮎釣り

午後は、それぞれ楽しみたいことをして過ごしました。川の中で泳いだり、魚を捕る人、午後も鮎釣りをする人などそれぞれが興津川の清流で楽しく過ごしました。

水中めがねや箱めがねで川の中の魚を探します



……参加者の感想……

「あゆつり」で楽しかったことはなに??

- 第1位 あゆがつれたこと
- 第2位 初めてつりをしたこと
- 第3位 先生にいろいろと教えてもらった

少数意見でしたが、「つれなかったけど、おもしろかった」がありました。

他に「待っているのが楽しかった」「来ないかなあとわくわくしたこと」「しかけがおもしろかった」「のんびりできた」「あゆが見れた」「石つみ」などがありました。

「川あそび」で楽しかったことは??

- 第1位 かつばの川流れ
- 第2位 魚を見つけたこと
- 第3位 ふだんできないことができた

1位は「かつばの川流れ」がダントツでした。とても楽しかったようですね。

他は「川がきれいで冷たかった」「魚とり」「川泳ぎ」「どじょうをつかまえたこと」などがありました。



川遊び・鮎つりセミナーの感想

川崎市 宇於崎 佑真

ぼくは、はじめて鮎釣りをしました。ずっとすわって待っていたけど、一匹きもつれなくて残念でした。こんどは一匹きぐらいつりたいです。ぼくは、ビーチボールのスイカ割りじゃなくて、本物のスイカ割りがよかったです。川遊びのとき、魚を二匹とれたのがうれしかったです。左岸まで泳いでいったのも楽しかったです。また、かつばの川ながれもとても楽しかったです。鮎の塩焼きがおいしかったです。鮎釣りのやりかたがわかりました。

川崎を出発する時は少し雨が降っていたので、静岡はどうかなあとおもったけど、雨が降らずにすんでよかったです。また機会があったら、行けたらいいなあと思いました。とてもいい夏の思い出になりました。また静岡の人ともふれあえていい経験になりました。こんどは釣れるように努力したいです。

参加者全員で記念写真を撮りました



内閣総理大臣表彰受賞記念フォーラム 1月29日

興津川保全市民会議事業委員長
望月誠一郎

内閣総理大臣表彰の受賞

興津川保全市民会議が発足したのが平成6年の8月で、今年で17年が経ちました。その間には、国土交通大臣表彰、環境庁長官賞を受賞しましたが、この度、平成23年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。通知は、2月頃にありましたが、3.11の東日本大震災の発生により、受賞式は少し先送りになり、6月22日に首相官邸にて行われました。市民会議を代表して山田訓史会長が、関係閣僚の居並ぶ中、当時の枝野官房長官から表彰状と記念の盾を頂きました。

授賞式の後、山田会長は、皇居において、天皇皇后両陛下による御接見があり、ねぎらいの言葉を受けました。

受賞者と関係大臣による記念写真



表彰状と重量感のある受賞記念盾



田辺静岡市長への受賞報告



内閣総理大臣表彰の受賞記念フォーラム

興津川保全市民会議の受賞を会員の皆さんと喜びを分かち合うとともに、多くの人に活動内容を知っていただくこと、そして、新たな一歩を踏み出すための学習を目的として、受賞記念フォーラムを開催することになりました。

平成24年1月29日（日）記念フォーラムの開催

会場等の都合で、開催日が1月29日（日）に清水区役所の元議場を改修した「清水ふれあいホール」で行うことになりました。冬の日曜日の午後にどれくらいの人に集まってもらえるのか心配でしたが、広報や新聞への情報提供や関係団体等への参加呼びかけにより、主催者スタッフも含め総勢約150人となり、1階席ほぼ一杯となる来場者にホッとすると同時に、興津川保全市民会議に協力していただいている皆さんに感謝いたします。

田辺静岡市長から「市長顕彰」を受賞

司会者の進行により、記念フォーラムが開会し、最初に興津川保全市民会議の山田訓史会長が受賞報告をしました。そして、次に、田辺静岡市長から祝辞とともに「市長顕彰」の表彰を受けました。今まで、静岡市に貢献した個人が表彰されてきたのですが、今回初めて「団体」が表彰されました。

静岡市長より「市長顕彰」の表彰状を受け取る



「清流のうた」を全員で合唱

興津川保全市民会議設立 10 周年を記念して作成した「清流のうた」を声楽家の片平有紀さんの独唱の後、会場の皆さんと合唱しました。この清流のうたは、片平さんにより各地の演奏会で披露され、とてもさわやかで親しみやすいと好評で、今でも清流のうたのCDをほしいという連絡が入ります。

「清流のうた」を片平有紀さんの指導で合唱



基調講演「大人も本気で川遊び」

講師は、愛知県の矢作川天然アユ調査会副会長の新見克也（にいみかつや）さんです。新見さんは、静岡新聞の平成 23 年 7 月から 11 月にかけて、釣り情報コーナーにおいて「大人も本気で川遊び」を連載されたことから今回の講師をお願いしました。矢作川で春は若鮎の遡上を見物して楽しみ、初夏～秋はアユ・ウナギ・スッポンを釣るなど一年中楽しんでいきます。熱狂的な鮎釣り師ですが、こだわりとして天然鮎ゼロの完全放流河川には釣行しないなど、一年中、川で活動している様子がうかがえました。

講師の新見克也さん

会場からの質問も活発に



パネルディスカッション

川が好き、山が好き、自然遊びが人を育てる

パネラーには、基調講演を頂いた、新見克也氏にも参加していただきました。

S-GIT（みどり情報局静岡）副局長の久米歩（くめあゆむ）氏は、静岡県立大学国際関係学部を卒業後、興津川上流域の両河内地区に I ターンし、地元中学生を対象とした学習塾「独歩塾」を開きつつ、林業技術を習得し、森林管理・木材伐出サービス会社を設立した起業家です。富山県出身の久米さんが、静岡の地に根付くのは、何でも挑戦する父親のDNAを受け継いでいるのかもとおっしゃっていました。

NPO 法人富士山ネイチャークラブ理事の難波清芽（なんばさやか）氏は、幼少の頃から自然の美しさ、心地よさに惹かれ、さまざまな野外活動に参加してきました「必ず自分で体験すること」を基本として各種イベントの企画・運営・マネージメントを統括しています。現在、富士山麓の植林地で、皮むき間伐という手法で取り組まれているそうです。

静岡市環境学習指導員の足立京子（あだちきょうこ）氏は、子どもから老人まで多くの人に自然や生き物の見方や楽しみ方を知ってもらおうと、子ども時代からの豊富な自然体験に裏打ちされたエピソードを楽しく話しつつ、明るく元気な笑顔で静岡県・市の環境学習指導員として活動中です。

パネルディスカッションの進行は、興津川保全市民会議事業委員長の望月誠一郎が努め、清水区の 52 号線沿いの但沼に生まれ、小さな頃から興津川で遊び、鮎釣りをして育ってきた体験を基に、川で遊ぶ楽しみについて話しました。

話し合いでは、現代の子ども達に、小さな頃から本当の自然の中で遊ぶ楽しみを知り、自然遊びが大好きで感性豊かな子ども達が育つにはどうしたらよいか、何よりも自然の中で遊ぶことが大好きなパネラーにより、さまざまな体験談が紹介されました。

自然遊び大好きなパネラーによるディスカッション



静岡県建築士会中部ブロック 清水地区
木村精治 小川清貴

興味を持ってもらえるテーマに苦心

今年も恒例の川のセミナーを行うことができた。多くの皆さんの参加。感謝、感謝である。

近年、どんなテーマのセミナーが子どもたちにとって興味をそそるのか、子どもたちには興味が無くてもこれだけは知ってしてほしい、話題性のあるテーマとは、と、興津川5月病にかかり悩む。最近、市内の小学校の夏休みが共通する日が限られ、幾つかの行事やセミナーが重なり、魅力あるセミナーを開催しないと子どもたちが集まらなくなっている。8月20日(土)はぎりぎりの日でもあった。おかげさまで、当セミナーは色々な関係者の方のご協力で、充実した質の高い内容と流しそうめんの楽しみを維持できていることを感謝する次第である。

水生生物の継続的観察

今回は、「興津川を科学する！魚・虫、そして興津川のしくみ」をテーマに、定点観察的ともいべき、承元寺と黒川での魚と虫の観察、毎年講師と内容が変わる川のしくみの話を行った。

水生生物の観察の指導は、東海大学名誉教授の永井先生と北野先生とゼミ学生。北野先生たちは神奈川からわざわざ来ていただいている。



「川の仕組み」を学ぶ

そして、今回は「川のしくみ」というテーマで、静岡県河川企画課の望月嘉徳さんに話をしていただいた。子どもたちには、あまりなじみがなく、難解ともいえる土木の話であったが、わかりやすい語り口で、子どもたちの興味をそそる内容であって良かった。洪水の恐ろしさや対応について昭和49年の七夕豪雨を背景としたアニメのDVDを見ながら教わった。子どもたちも、3.11の東日本大震災の津波映像を見ているため、とても真剣なまなざしで見入っていた。

大災害から感じること

東北の子どもたちは、今年、目の前に川があっても入れない状況で、中には、外にも出られず状態だった子どもが多かったと聞く。こうした状態はいつまで続くのか。そうした中でストレスが溜まり、心の癒しの支援も必要な時期にきているとも聞く。清水の市街地近郊に、なんと清らかで、毎日の上水となる興津川があり、こうして野外活動ができる喜びを改めて感じる。

いつも大人気のお昼の流しそうめん



そして、この喜びの一部を東北の子どもたちに少しでも感じる機会が作れるといいなと、ふと思った。

今年のセミナーは、色々と感じさせてくれるセミナーでもあった。

市民の森づくり「間伐と木のクラフト」 2月4日

興津川保全市民会議 事務局

あいさつ

朝8時30分、参加者が清水森林公園管理センター前に集合しました。今年は、インフルエンザが流行っていて、直前に参加できなくなった人が多く、少し寂しい森づくりとなりました。

それでも、あいさつ、自己紹介などをして元気に市民の森に向けて出発しました。

足下が冷える中で、参加者のあいさつと自己紹介



間伐が必要なほど大きくなりました

市民の森づくりを始めて15年程経ちました。最初の頃に植林したスギ、ヒノキは鹿の食害にもめげず、間伐が必要なほど大きくなりました。そこで、今回は参加者により間伐を行いました。

間伐はなぜ必要か学習

最初に間伐がなぜ必要かという説明をS-GIT(静岡みどり情報局)の隊員より受けました。「最初は苗を沢山植えて、大きくなるに従い、少しずつ間引きをして、まっすぐで太く元気な木を残し、大きく育てるのです。」

S-GITの指導で間伐体験

S-GIT(静岡みどり情報局)の隊員の指導により、スギの木を切り倒しました。

ドドーっと、木が倒れると、それまで枝が張り空を覆い暗くなったところから青い空が見え、そこから根本近くまで光が入る明るい森になりました。

切った木の年輪を数えると15年程の樹木であることがわかりました。

慎重に木を切っていきます



切り倒した切り株の年輪を数えて見ました



木のクラフト体験で楽しく

山から下りてきて、今度は木を使ったクラフト体験です。

木の皮を剥いて、枝を残して帽子のハンガー作りや自然の木の枝を使ったシャープペンシル作りなど、それぞれがナイフやノコギリなどを使って作りました。

それぞれが作りたい木でクラフトをしました



山と谷を駆けめぐる森林探検隊 11月26日

みどり情報局 鈴木嗣人

野山を駆けめぐる冒険の道歩き

今年も嶺の子山荘で「森林探検隊」が行われました。11月の終わりとは思えないとてもいい陽気で、大勢の親子が集まってくれました。

まずは実際の山の中を探検しましたが、整備された山道なんてありません。ルートスタッフは簡単に整地した程度です。ですが子供達はとても元気に進んでいきます。沢に渡した丸太橋や、急な山の斜面もどんどん進んでいきました。反対に大人の方が疲れてしまったようです。山の中では休憩しつつ、山や木の役割などについて勉強し、木の年輪も数えてみました。

木橋を渡って、森の中の探検



イノシシの顔の骨を見て、生態研究



火起こし体験

山から戻った後は、お湯沸かし競争です。火起こしをするのですが、用意された道具、材料を使って子供達は考えながら火をおこしました。紙と枯葉だけ燃やす子もいれば、マッチで直接薪に火をつけようとする子もいました。

イノシシ鍋でお昼ご飯

昼食は山荘で、イノシシ鍋と、本格的な石焼芋をいただきました。イノシシ鍋はみんな沢山おかわりをしてくれて、すぐに無くなってしまいました。猪肉は清水区大平の石垣昌平さんからいただきました。ありがとうございます。

竹ぼっくりづくり



最後は、山の生き物をまねしたゲームや、葉笛、竹笛、竹トンボ、竹ぼっくり、などで遊びました。おみやげも沢山できて、みんな「楽しかった!」と言ってくれました。

災害を受けた山を目の当たりにして

9月21日の台風で、嶺の子山荘周辺の山も含め大変な被害を受けました。山荘に来る道からは、斜面全体が崩れてしまった山が見え、山荘の裏山は多くの木々が根っこから倒れていたりなど、ひどい状況です。今回の「森林探検隊」ではいい教材になったと思います。「山の木(ヒノキ、スギなど、人の手で植えた人工林と言われるもの)は、なぜ間伐をしなくてはいけないのか?」という疑問の1つの答えが目の前にあるからです。山の木は間伐(間引き)をして、残した木をさらに大きくするために必要な作業で、今回のような台風などにも耐えられるような木、山にするための作業だからです。

今、間伐が遅れている山が多くあります。木を伐る理由は、まだあまり浸透されていないのがとても残念ですが、このような機会を通して少しでも理解してもらえればと思います。

大きな木の高さはどれくらいかな



森林探検隊の感想

城戸嶺（小学2年生）

シシ汁おいしかった。竹を切ったり、いろいろなものを作れてよかった。

たきもとこうたろう（小学3年生）

たのしかった。

けんもちあいり（小学3年生）

たんけんして、たのしかった。

杉山萌（小学3年生）

山を登ったり、おりたりするのが楽しかったです。また来たいです。

糠沢万美（小学3年生）

いろんなことがまなべてよかった。とてもたのしかったです。

かた山ゆうき（小学2年生）

たけぼっくりがたのしかったです。

おぎのじゅんじ（小学4年生）

たのしい。どきどきした。

勝呂翔馬（小学4年生）

たのしかったです。

城戸瞭（小学5年生）

トラックにのってたのしかった。

山本里菜（小学5年生）

いろいろな自然を感じました。とても木や竹などがたくさんありました。前、総合で“かんぱつ”などをやって木をノコギリできって、ひもでひっぱって、たおしたりしました。山は足場が悪かったけど、自然でいいと思いました。

山本陽菜（小学5年生）

火おこしでは予想以上にうまくつき、よかった。話も楽しかったです。草ぶえがなかなかふけなくて大変でした。でもなんとかできました。

子どもたち
で火起こし
に挑戦!!



今日のお昼のこんにゃくづくりの手伝い



手作り輪投げ



剣持龍弥（小学5年生）

たのしかったです。

武田友美（小学6年生）

ふだん、あまりしっかりやることがなかった草笛が出来てよかったです。自然な物ですごくきれいな音が出てすごく楽しかった。

いつも、すごく自然を感じられる所に住んでいるのだけれど、知らないことがたくさんあった。これからもいろんなことを知って、自然の中で遊んで大切にしていきたいです。

石垣美月（小学6年生）

楽しかったです。ふだん裏山を登ったりしているけど、先生たちの知識のある話をききながら、ちがうかんじで登れたのでよかったです。

山本奈々（小学6年生）

ふだん山や森の中に入っているけれど、私たちだけでは気づかないことを教えてくれたし、草笛など楽しかったです。

火おこしで、いつも親のを見て、たき火などしているけど、自分たちでやって、1位になれた。草笛もうまくふけたので楽しかったです。

ゲームをして楽しく過ごしました



「岐阜市・静岡市 清流保全交流事業」 視察・研修に参加して

興津川保全市民会議 事務局

岐阜市「長良川流域環境ネットワーク協議会」

本年度の視察は、清流の都・静岡創造推進協議会が岐阜市の「長良川流域環境ネットワーク協議会」との交流事業で訪問するというので、参加をしました。

静岡からの参加者は、総勢 28 人で、その多くを興津川保全市民会議の会員が占めました。

出発の朝 8 時頃は激しい雨が降っていましたが、交流会場の「長良川国際会議場」に着いたお昼頃には小雨となっていました。この施設は、夏期に長良川の鶺鴒が行われる会場近くに立地し、正面には織田信長の居城であった岐阜城が山頂にある金華山が聳えていました。

意見交換会

到着後、早速岐阜市「長良川流域環境ネットワーク協議会」の活動について説明を受けました。この協議会は、長良川流域 166km の 18 市町により構成され、多くの市町が係わることの苦労もあるようでした。会では、「災害のない川」「鮎の再生」「伊勢湾にゴミを流さない」「飲みたいときにはいつでも飲める」環境づくり、仲間づくりを目標に活動を続けているそうです。

交流会での説明と意見交換会



現地視察

意見交換会の後、長良川の清掃活動の主要地区を案内していただきました。

長良川は、岐阜市内の市街地の中央を流下しており、市民が常に川に近づき、散策や水辺での遊びなどにより親しまれているのですが、一方ではゴミの放置なども見られることから、市民や河川利用者がゴミを捨てないように、クリーン作戦や啓発活動をされていました。

長良川の清掃活動を行っている河原



平成の名水百選「達目洞（だちぼくぼら）」

次に、金華山の反対側の東山麓に湧き出ている平成の名水百選に選ばれた「達目洞（だちぼくぼら）」を案内していただきました。ここは、以前より「ヒメコウホネ」という環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定される貴重な植物が自生している所です。この花を守るため、湿地環境の保全、外来植物の除去、自然観察会の開催などを行っていました。

この地区を横断する道路計画が持ち上がったときには、市民がその生息地を守ろうと、道路建設関係者に持ちかけた結果、道路はこの土地をまたぐように高架

スイレン科 ヒメコウホネ



で建設されました。私たちが訪れたのは、2 月後半で、最も水量の少ない時期でしたが、水路や湿地は、昔ながらの姿で保たれていました。

ヒメコウホネが自生する湿地帯と水路



総会 ～元気な天然アユが育つ興津川～ 6月18日

総会での講演会紹介

興津川非出資漁業協同組合 事務局 大岡 章吾



講師 たかはし河川生物調査事務所
代表 高橋勇夫先生（農学博士）

先生は1995年高知県に生まれました。アユの生活史の基礎研究をベースに全国各地の河川で漁協の人たちと天然アユを増やす活動に取り組んでおられ、天然アユを増やすための技術開発と情報発信を行っています。

講演の内容をいくつか紹介させていただきます。全国のアユの漁獲量は1991年には18,000tありましたが、15年後の2005年には7,000tに落ち込んでいるそうです。天然アユの減少は高度成長期の河川の開発で天然アユがまともに生息出来ない川が多くなった事に起因しているとのこと。種苗放流では資源を増大させることはもとより、維持することさえ難しいことも明らかになってきたそうです。アユが生きる基本、生活の基本にあるのがきれいな水と空気です。

川を上るアユの魚道についてもいくつか説明がありましたが、ウロコ模様で魚道を作る事を推奨しておられました。興津川水系中河内川新東名下の堰堤が老朽化しているため、静岡県と漁協が話し合い、ウロコ模様の堰堤として2年後に完成する予定です。

高知県奈半利川では昭和30年代に三つのダムが建設され、その結果濁水の長期化により天然アユが正常に生息するには厳しい環境となりました。訪れる釣り人もほとんどいない状態にまでなりました。そこで漁協では電力会社と共同で産卵場の整備と漁獲規則、産卵場に必要数の親アユを確実に残す対策をとってきました。

そして2009年以後は安定した遡上量が得られるようになったそうです。又、矢作川では天然



アユが増えた事由として、天然アユ調査会を立ち上げ、アユを増やす16項目を基本に川の関係者と話し合い、環境重視の環境漁協宣言をしたことを挙げておられました。

最後に天然アユを守る意味を四つ程挙げておられました。

●一つ目 私達の住む自然環境をアユが監視してくれている。アユは海と川を回遊し、海から川さらに山までの一連の循環がうまくいかないと住みにくくなる。

●二つ目 アユと言う身近な魚を守るという活動の中から、これからの自然との付き合い方が見えてくる。愛知県の矢作川での取り組みがよい例である。

●三つ目 アユは再生産する生物資源ということにある。自然の循環を壊さなければ永久に利用できる。生物資源を枯渇させてはならない。

●四つ目 アユが多いと流域が何かしら元気になる。

そして興津川とそこに住むアユが流域の皆さまに愛され子々孫々に利用されることを願っておられました。



平成 23 年度 静岡市興津川保全基金への寄附など

市民会議の帽子ができました

以前より作りたいと考えていた興津川保全市民会議のオリジナルの帽子ができました。

メインの鳥は、清流興津川に生息するやませみです。OKTは、OK i T hu の頭文字を表しています。横には、興津川保全市民会議の名称を入れました。

各種のイベントなどに活用していますが、会員の皆さんで希望される方がおりましたら事務局までご連絡下さい。



各種グッズ等を作成し、有効活用しました

本年度は、セブン・イレブンみどりの基金及びエコポイント環境寄付金などから助成金を頂きました。セブン・イレブンみどりの基金では、水生昆虫や魚の観察用の水中めがねと箱めがね、鮎釣り教室の時の竿やタモなどの道具類もそろえることができ、年間を通じて事業への有効活用を行いました。また、エコポイント環境寄付金の一部を活用し「総理大臣表彰受賞の記念フォーラム」を開催しました。

さらに、やませみストラップやオリジナルクリアファイルなどを作成し、事業参加者に記念として配布するなど有効に活用しました。

清水入江女性学級から興津川保全の基金への寄附を頂きました。

【杉山環境局長が寄附を受け取りました】



興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 (株) 地域デザイン研究所 (望月)
発行日 平成 24 年 3 月

興津川保全市民会議事務局
(静岡市清流の都創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-205-2666

〒 420 - 8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧下さい

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

平成 23 年は、3.11 に東日本大震災が発生しましたが、興津川の流域においても、森林は荒れ、川は氾濫して大きな災害となりました。第 34 号は、活動に参加していただいた方々のレポートを中心に編集しました。お忙しい中ご協力を頂き大変ありがとうございました。